



公立世羅中央病院だより

No.60

救急外来受診の手引き(13)

—呼吸器疾患(成人)編—

公立世羅中央病院 診療部長 片岡 雅明

公立世羅中央病院では、時間外選定療養費が算定されるようになっていきます。これは、夜間や休日に病院を受診した場合、緊急性がないと判断された場合には、一律3,240円の時間外費用の負担をしていただくといったものです。この制度が始まった理由は、軽症の患者さんのいわゆる「コンビニ受診」を減らしていくという目的のためです。しかし、一概に軽症といっても、どのような状態が「コンビニ受診」に相当するかは、一般の方にとっとなかなか難しい判断であることと思います。

【肺炎の場合】
肺炎のガイドライン(日本呼吸器学会)では、重症度を、次の項目で判断していきます。①男性70歳以上女性75歳以上。②意識状態が普段より悪い。③呼吸状態が悪い(呼吸回数が多い。口唇や指の色が紫色に近い。痰がコロコロ引つかかっている。)(④脱水症状がある(食事や水分がとれない。口喝があったり、舌が乾燥している)。④血圧(収縮期・上の血圧)が90mmHg以下。この5つの項目のうち、1〜2個以上が当てはまる場合には、入院が必要かもしれないと判断されます。

【気管支喘息の場合】
気管支喘息のガイドラインでの喘息発作強度の基準をみてみましょう。①軽度以下:急ぐと苦しい。動作はほぼ普通。②軽度:苦しいが、横になれる。動作はやや困難。③中等度:苦しくて横になれない。動作はかなり困難で、かろうじて歩ける。④高度:苦しくて動けない。歩行困難、会話困難。となります。

【まとめ】
65歳以下の若い方は、あまり心配する必要はありません。診療時間内に、かかりつけ医に御相談下さい。呼吸器疾患を持つ病として持つておられる方や入院治療を行った経験のある方は、早めに救急外来を受診して下さい。

65歳以下の人では、死亡例はほとんどありません。
肺炎以外の場合で、発熱、感冒や扁桃腺炎なども同様の考え方でよいと思います。

かに病院を受診して下さい。
気管支喘息の患者さんは、全国で毎年2,000人ほど死亡されています。死亡者は、高齢者が多いことはもちろんですが、意外な事に、日常ではそれほど重症ではなかった人が多いとされています。

また、咳が出るタイプの気管支喘息(咳喘息)や急性気管支炎の場合、市販の咳止めを使用して、日常生活に支障が出る様であれば、速や

公立世羅中央病院では、限られた職員で、救急医療を担当しておりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。